

日比谷公園 大音楽堂（野音）の再整備について

「バリアフリー日比谷公園プロジェクト」に基づき、今回のオープンハウスでは、大音楽堂（野音）の再整備に関する内容をお示します。
現在の音楽堂は、改築から40年以上が経過し、老朽化が進んでいるとともに、控室やバックヤード等が不足しバリアフリー対応も十分でないことから、改築工事を行います。また、大音楽堂の周辺についても、バリアフリー化を進める等一体的に再整備します。

歴史

- ・日比谷公園大音楽堂は、通称『野外音楽堂』、『野音』と呼ばれ、数々のアーティストのライブ、コンサートに使用されてきた野外ステージとして、多くの人に親しまれてきました。
- ・日比谷公園大音楽堂は、大正12年（1923年）7月に開設されました。東京市がこの音楽堂の建設を計画するにあたっては、音楽会・演劇界を代表する方々と綿密に案を練り、和洋音楽はもちろん、舞踏・野外劇・民衆娯楽・社会教育的各種催しができる野外劇場式の音楽堂とすることに決まりました。
- ・これまで、昭和29年（1954年）と昭和58年（1983年）の2度の改築を経て現在に至っています。



初代

- ・我が国初の本格的な野外音楽堂だと言われています。ステージ53坪、聴衆席、立席を加えれば6000人収容可能な音楽堂でした。
- ・完成から2か月後に起きた関東大震災により、小音楽堂は倒壊しましたが大音楽堂は破損せず、復興のための野外集会場として利用されるなど、大評判となりました。
- ・初代音楽堂は、主に吹奏楽やクラシックコンサートなどが盛んに開催されました。音楽会以外にも、舞踏会、野外劇、拳闘（ボクシング）試合など多様な行事に利用されました。



二代目

- ・初代音楽堂は、太平洋戦争中の昭和18年（1943年）より一時休館し、戦後はGHQにより接収されましたが、接収中に火災でステージが全焼しました。接収解除後の昭和29年（1954年）に改築の上、二代目大音楽堂として再開しました。
- ・二代目音楽堂は、フォークソングやロックコンサート等の舞台として数々の伝説を生み、「音楽の聖地」「ロックの聖地」「フォークの殿堂」などと呼ばれ、若者に支持されるライブ会場となりました。



三代目

- ・二代目音楽堂の老朽化が進んだため、昭和58年（1983年）に（一財）日本宝くじ協会の寄付により全面改築工事を行い、三代目音楽堂として完成し、現在に至ります。
- ・三代目音楽堂も二代目に引き続き、様々なジャンルのコンサートが開催されています。バンドブームとなった90年代は、野音が新人バンドの練習場となり、様々なミュージシャンが野音の舞台を踏み、多くの伝説的ライブが生まれました。90年代以降は、野音で育ったミュージシャンが、再び野音で演奏する機会も増えてきています。
- ・今後、三代目音楽堂の外観などをデジタルアーカイブすることを予定しています。

現状の課題

施設の老朽化



屋根材の劣化



外壁コンクリートのひび割れ

- ・屋根材の劣化や排水ドレンの劣化による排水不良のため、恒常的な雨漏りが発生しています。
- ・床や外壁コンクリートのひび割れが発生しています。
- ・雨漏り等の影響により、壁・床材の劣化や、建具の開閉不良が生じています。

バリアフリー化



勾配が急なエントランス



ステージが見えにくい車椅子席

- ・入口から車椅子席までのアプローチ動線は、現行法令に則った勾配で整備されておらず、車椅子使用者のためのスロープやエレベーターなどの整備が必要です。
- ・一部の車椅子席は、前列の観客が立つとステージが見えにくい状況です。

楽屋機能等の不足

- ・楽屋や倉庫は、数・面積ともに不足しています。
- ・楽屋が少ないため、可動式パーテーションで部屋を間仕切りするなど、使い勝手が悪い状況です。

バックヤードの不足

- ・バックヤード（搬出入ヤード）の面積が不足しており、円滑な資機材搬出入ができないことや、スタッフ車両の駐車場の確保などが課題となっています。
- ・公園利用者の動線と資機材の運搬動線が交錯しています。

再整備の方針

- これまでの野外音楽堂の開放感を継承します。
 - ・ステージからも客席からも空が見える野音とします。
 - ・緑に囲まれた野音を継承します。
 - 郷土の森の樹木については、現状のまま保全します。
 - ・客席及びステージ棟については、樹木への影響を避けるために、現状のエリア内で再整備します。

- 誰もが利用しやすい野音として再整備します。
 - ・エントランスについて、急勾配なスロープを改修するとともに、エレベーターを設置します。
 - ・2階観覧エリアを新設し、誰もがステージを見やすい空間となるよう配慮します。
 - ・かもめの広場について、バリアフリー化を推進します。

- 野音のステージ機能を拡充します。
 - ・施設の向きの変更や防音壁の改修により、公園外への音漏れを低減します。
 - ・楽屋、倉庫の増設やバックヤードの新設により、出演者の快適性や公演関係者の利便性を向上させます。

将来イメージ図

※樹木の配置はイメージであり、今後の検討によります



(客席から見たイメージ)



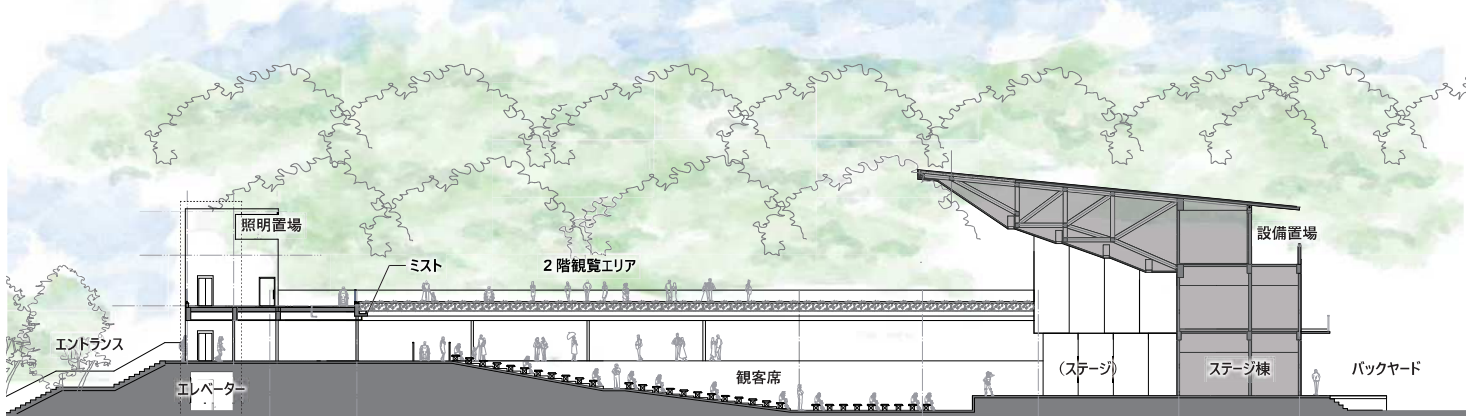
(鳥瞰のイメージ)



(エントランス廻りイメージ)

断面計画イメージ

- ・車椅子利用者を含めた観客のステージの見やすさ（サイトライン）に配慮し計画します。
- ・2階観覧エリアを新設することで、観客のサイトラインを確保するとともに、既存施設と同等数程度の客席数を計画します。
- ・観客席後方にミストを設置します。

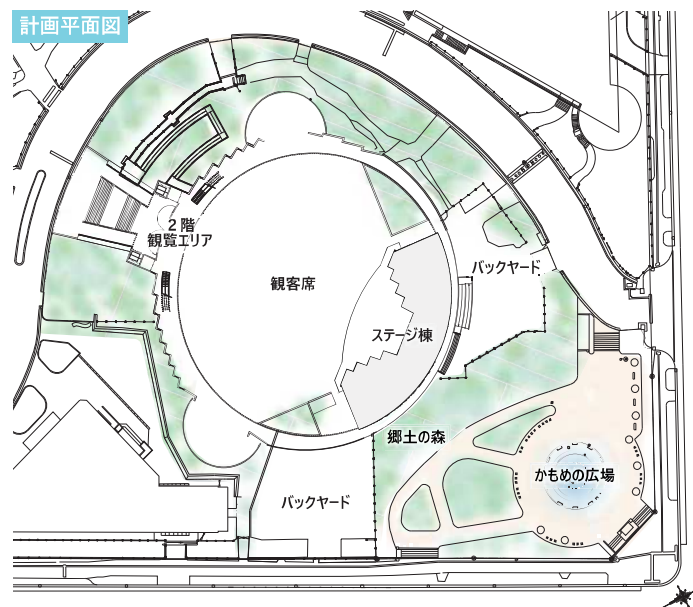


平面計画イメージ

現況平面図



計画平面図

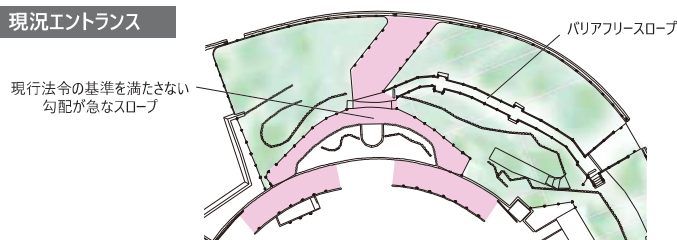


大音楽堂の魅力向上

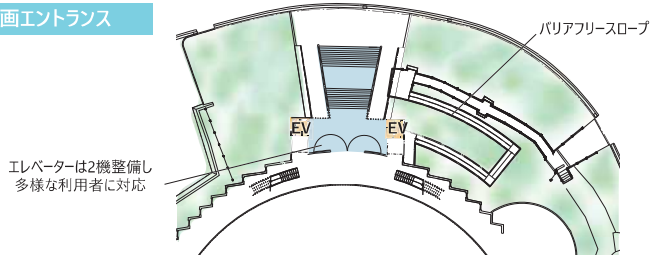
バリアフリーの推進

- エレベーターとスロープを併設したエントランス空間を整備することで、現行法令に適合させるとともに、誰もがアプローチしやすい計画とします。

現況エントランス

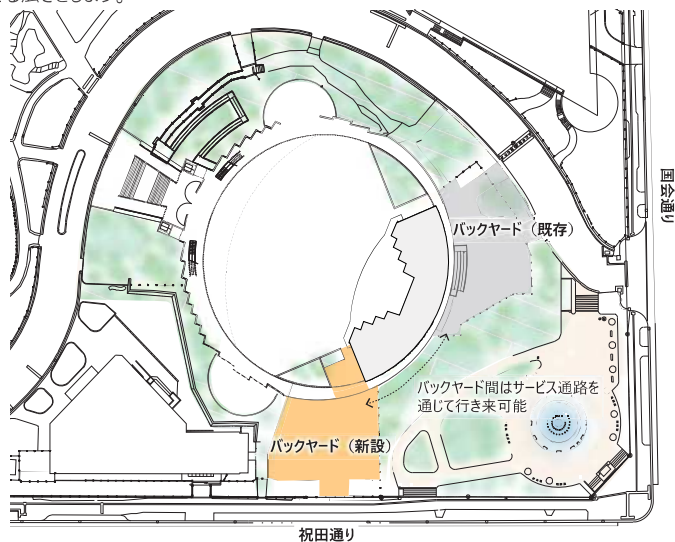


計画エントランス



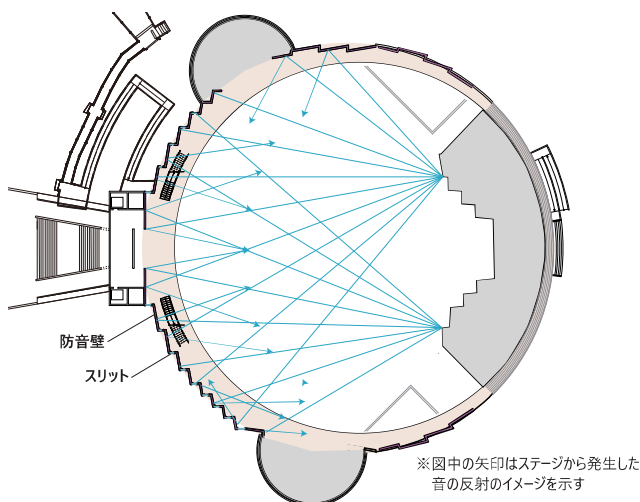
バックヤードの拡充

- 既存のバックヤードに加え、公園利用者を避け、祝田通り側からアプローチできるバックヤードを新設します。
- 新設するバックヤードは、資機材搬出入用の大型車両が2台程度駐車して利用できる広さとしします。



防音壁の設置

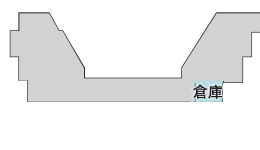
- 外周部に防音壁を設置することで、野音外への騒音を低減させます。
- 防音壁を効果的に配置することで、ステージから発生した音が反射して特定の場所に集中することを防止する計画とします。
- 2階レベルまで防音壁を嵩上げすることで、防音機能を向上させます。
- 防音壁間に透明のスリットを設置することで、防音壁の圧迫感の低減に努めるとともに、公園の緑が感じられる計画とします。



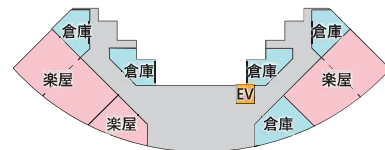
楽屋機能等の充実

- 既存施設の楽屋の室数は2室しかありませんが、計画では、最大7室利用できるようにし、出演者だけでなく運営スタッフも利用できるよう配慮します。
- 楽屋については、公演前の音出しや声出しが可能となるよう、防音に配慮します。
- また、倉庫についても数を増やして、使い勝手に配慮します。

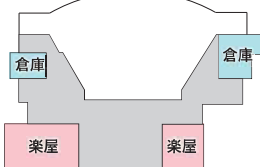
現況2階



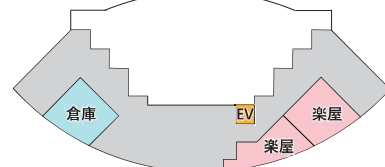
計画2階



現況1階

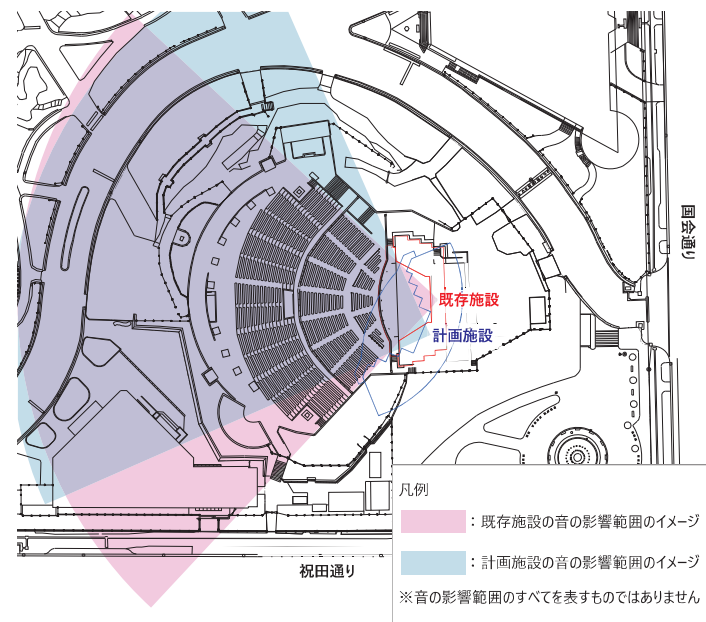


計画1階



ステージの向き

- ステージの向きを公園の中心方向に回転させることで、公園外に対する騒音を低減させます。



樹木の取り扱い

- 樹木は可能な限り現在の位置に残すこととし（侵略的外来種※は撤去）、移植が必要となった場合には樹木診断を行った上で、公園内もしくは一旦公園外に仮移植した後に復植します。

※ もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを外来種といい、外来種の中でも、その地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性をおびやかすおそれのあるものを、「侵略的外来種」といいます。今回のエリアでは、トウネズミモチ等が該当しており、今回の再整備に合わせて撤去することとしています。

